

優しく強い子に!



http://www.minamih.net/
19・4・6(土)
南NEWS NO 1

入学・進級、おめでとうございます

八王子市内では4月8日に始業式と入学式が行われます。新しい学校、学年、クラスで、子どもたちは夢や希望を胸にスタートを切ることでしょう。

南八王子サッカークラブも創立以来42年目を迎え、6年生は43期生になります。

今年度も
どの子もサッカーを楽しむ中で
“友を思いやる優しさ”
“やらなければいけないことをやり抜く強さ”
をもつ子に育ててほしいとの願い・目標をかかげてクラブの運営・活動をしていきます。

3年生までは“だんごサッカー”、“原則どの子も試合の半分は出す”“失敗を怒ることなく、トライしたことを認め励ましていく、小さな進歩でも誉めて自尊・他尊の感情を育む”ことを大切にしていきます。

勉強もサッカーも自分のめあてをもって努力して自分を育てる子、チームのめあてをもって育ち合う子、自分で判断し選択できる子、そのために本を読む子、自宅学習のできる子、目を見て話を聴くことができる子、あいさつ、お礼、返事のしっかりできる子、言える子が育つように子育てのお手伝いをします。

地域の大人、お兄さんがボランティアで指導するクラブ、南八王子サッカークラブです。子どもたちを輪の中心にして、お家の人や役員さん、後援会のみなさんの応援・ご協力を得ながら、“できる人ができる範囲で”“やれる人がやれる範囲で”を原則に、報連相を大切に、仲良く、楽しく活動していきましょう。



新年度のスタッフ (南OBのコーチは9人)

- ◎印は統括コーチ。クラブ全体の連絡調整にあたります。
- Cクラス ◎鳥取コーチ、清水コーチ、野崎コーチ、
- Bクラス ◎中村元コーチ、谷口コーチ、中野コーチ、鳥取コーチ
岩堀コーチ、中村龍コーチ、清水コーチ、原山コーチ
- Aクラス ◎田邊コーチ、染谷コーチ、加藤コーチ、谷口コーチ、平山コーチ
岡村コーチ、岩田コーチ、三原コーチ、諸井コーチ、碓井コーチ
- Jrユース◎和田コーチ、江口コーチ、安東コーチ、田中コーチ、千野コーチ、
小丸コーチ、大沢コーチ・小林コーチ、高津コーチ、牛窪コーチ

※染谷コーチは副代表、南テクニカルアドバイザー。
※尾川コーチ、小松コーチ、中西コーチは全クラスの支援。 ※矢上は代表・監督としてAクラスを中心にどの学年にも積極的に顔を出し、お手伝いをします。寺子屋、水曜日・金曜日の午後練の指導も担当します。他のコーチの方もクラス担当は決めますが、全員で全クラスに責任を持つ、指導に当たるのが原則です。引率・指導した試合は、必ずレポートを書いていただきます。子どもたちの活動の評価をして、認め、励ましよいとを伸ばすためです。それをNEWSに載せていきます。

練習時間 (由井三小使用の時) 目安です。練習時間は2時間が原則です。

- 第1・3・5土曜日 1・2・3年 9:00~11:30
4年以上 12:00~14:30
- 第2・4土曜日 1・2・3年 9:00~11:30
4年以上 13:00~16:00
- 第4日曜日 1・2・3年 10:30~12:30 4年以上 14:30~
- 第1・2・3・5日曜日 1・2・3年 10:30~12:30
4年以上 13:00~16:00

自分のめあて、チームのめあて

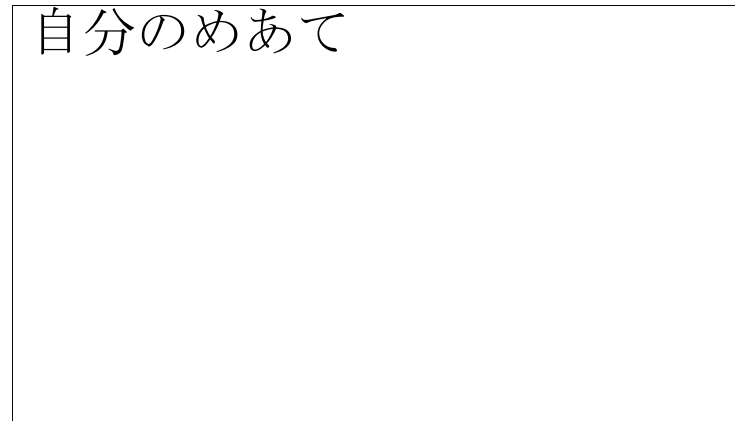
学習内容が増えて、土曜日に公開授業をしても振替休業日をとれない等、時間が足りず、どの子も理解するまでじっくりという授業ができにくくなっています。自宅でその日のうちに復習し、理解する習慣がないと学習についていくことが難しくなっています。今も講師として学校現場に携わっていて実感しております。

いつも言っていますが、サッカーもみんなと同じ練習をしていたのでは目立った伸びは期待できません。(〇〇をうまくなりたい) と思って努力することが必要です。そういう練習は、自分で時間をつくってしなければなりません。

勉強と同じですね。家でその日の授業の復習をするだけでゲームと力がついていきます。毎日学習する習慣がある、本を読む、新聞を読む子はどんどん伸びていきます。1年生でも文章が書ける子の読書のレベルは高いものがあります。

そこで、新年度のスタートにあたり自分のめあて、チームのめあてを考えてもらいたいと思います。自分で、自分達で選んだめあての達成に向けてGAMBAってほしいと思います。それが子どもたちが主役のサッカーの創造になります。

自宅学習のめあてもね。 学年の数×10分~15分の毎日の自宅学習を!!



チームのめあては、みんなでそれぞれの考えを出し合い、話し合ってください。2年生以上はGAMBAノートに自分のめあてやチームのめあてを書くようにします。試合でできたかどうかを反省し、それを書いて、次に活かすようにします。自分たちがめざすサッカーを自分たちの力で創るのです。

